

農業用水路が復活させた、 地域コミュニティ機能と新たな交流

—景観保全機能—



縫ノ池の全景



草花の植栽活動



農業用排水路の除草



水路の生き物調査



キャンドルナイト

川津資源保全隊

川津地区は、従来から水源に乏しい地形であったため、昭和 30 年代から農業用水として地下水（深井戸）に依存してきた。こうした地下水のくみ上げにより、白石町では、地盤沈下が深刻な問題となり、当地区内にある「縫ノ池」の湧水も枯渇してしまった。

その後、ほ場整備事業などにより農業用水の確保や農業用排水路が造成され、地下水のくみ上げ抑制を行ったことが要因として、平成 13 年に約 40 年ぶりに湧き水が甦った。これを契機に、当地区では「縫ノ池湧水会」を設立し、その後、「川津資源保全隊」として、地区内の環境美化活動や近隣都市住民を含めた交流活動を行っている。



しらいし
佐賀県白石町

〔景観の保全〕

川津地区では、草花の植栽、農業用排水路の泥上げや「縫ノ池」の清掃などの環境美化や保全管理活動にも地域で取り組んでいる。この清掃作業には、地元の子供たちも参加させ、水路に生息する淡水魚や営農活動の関わりについて理解させ、水辺の環境保全に地域全体で努めている。

〔伝統文化の継承、体験学習と教育〕

毎年正月には、衰退していた伝統芸能（浮立）も復活し、地元の子供たちによって受け継がれている。

また、子供から大人まで集まって、地域や縫ノ池の歴史の勉強会を行ったり、毎年、地域の小学校から縫ノ池に来て、湧水や生き物、歴史の勉強も行われている。

〔地域社会の振興〕

川津資源保全隊では、7月「キャンドルナイト」、8月「親子魚釣り大会」、10月「お茶会」など各種イベントを開催し、近隣都市部から多くの人々が訪れ、地域住民との新たなコミュニティ機能が生まれ、地域の活性化につながっている。

縫ノ池の主なイベント



親子魚釣り大会



お茶会